

「おかあさんもおばあちゃんもおすし作ってんの?」

「そうや、大神宮さんのさばずしや」

「今年もみんな元気でごうしてさばずしが作れてありがたいな。昔から、もさばずしのおかけかいな。昔から、さばずしを食べると、流行病にかからへんて言われてるからなあ」

「わあ、おにぎりがいっぱいできた」

「この上に、一晩酢につけておいた塩さばを一枚ずつのせて、柿の葉でくるりと包む。それを四角い押し箱にきっちり詰めて、一晩押ししておく、さばずしの出来上がり」

「こんなにいっぱい食べるの」

「高田のおじさんも、奈良のおばちゃんも楽しみにしてくれたはるやろ。それに京都のおばさんとも送らんなん。これは御所の味やからなあ」

「なあ、おばあちゃん、昔からこうしてさばずし作ってたん?」

「そうや」

「なんでも、江戸時代におかけ参りいうて、お伊勢さんへお参りに行くのが流行ったことがあってな。この御所からも大勢、てくてく歩いて伊勢神宮まで参らはったそうや。その時、弁当に作ったのが、さばずしの始まりやって言う人もいたはる。それから、大神宮さんのお社を修理しやはった時、お社の床下に敷きつめる玉石を取りに、みんな歩いて吉野川へ行かしたそうや。その時、弁当に作ったのがさばずしの始まりやって言う人もいたはる」

「いかはったんやなあ」

「世の中があつという間にえらい変わったもんなあ。さばずしの作り方も変わった。私が習うたのは、今みたいに小さな俵型に握るのと違った。まんなまるうして、ちよつと平らに握る。その上にすいた塩さばのせて、柿の葉のせて、またごはん、塩さば、柿の葉というように重ねていく。押し箱なんかいへん。おひつにまあるく並べて積んで入れる。」

「お祭りは六月十六日やなあ」

「そうや、お祭りに貼ってもらおうお習字は、もう書いたん?」



画 村埜 治郎 さん 「今年は図画を描いてん。私のはどこへ貼らるのやろ」

「うちの子や、近所の子のやら、見せてもらえるな。」

昔はお習字だけでな、仲川の紙屋さんからくれはる上等の紙で、隅っこにタマキチの印が押してあった。大神宮さんに、上手に書けますようにって、お願いしたもんや」

「ふうん。今年も夜店がいっぱい出るやろなあ。雨が降りませんように」

「ほんま、よう雨が降るからなあ。梅雨の最中やもん。そうそう、大神宮さん言うたら、もうひとつ名物の水まんじゅうがあるわ」

「笹の葉に包んで氷で冷やして売ってる」

「ひんやりしてつるつと喉を通る。なんか食べとうなってきたわ」

【大神宮さん】

◆ ◆ ◆ 有料広告掲載の問い合わせ先 株式会社ホープ 電話 092-716-1401 ◆ ◆ ◆